

現場訪問 — 亀山市立中部中学校・交通安全教室

交通安全教育センターのプログラムを活用した 自転車で通学する中学生への指導

5月14日、鈴鹿サーキット交通安全教育センター（三重県鈴鹿市）で、亀山市立中部中学校（三重県亀山市）の1年生174名を対象にした交通安全教室が開催された。

同校の赤坂達生教諭は今回の交通安全教室を企画した背景を次のように話す。

「当校では生徒のほとんどが通学に自転車を利用しています。そのため毎年、地元の警察署の協力を得て、自転車の乗り方指導などを行っています。これに加え、今年は少し手法を変えようと、鈴鹿サーキット交通安全教育センターを利用することにしました。」

交通安全教室の内容は座学（1時間）と実技（1時間）。座学では、夜間事故の原因や、どうしたら防止できるかを生徒たちに考えてもらう。インストラクターが「みなさんは中学生になって、クラブ活動で下校が遅くなったたり、帰宅後、塾や習い事に行くため、夜間に自転車を利用する機会が増えていくと思います。ここでは夜間、皆さんが交通事故に巻き込まれないようにするためのアドバイスをしていきます」とこのプログラムの目的を話す。

まず、昼間と夜間での色の見え方の



いろいろな色のベストを生徒に着用してもらい、徐々に教室の照明を暗くする。明るい時と暗い時では色の見え方に違いがあることを確認

違いを実感してもらおう。8名の生徒にそれぞれ、赤、青、黄、緑、白、ピンク、オレンジ、黄緑のベストを付けて前に立つてもらおう。そして、教室の照明をおとして暗くする。この状態で一番目立つのは白。逆に、明るい時は目立っていた赤は暗くなると目立たず、色の判別もつかなくなる。「目立つ色の服を着ることができない場合もあります。そういう時は反射材を身につけておくと夜間、ドライバーが皆さんを発見しやすくなります」と、インストラクターが再び教室を暗くして、反射材の効果を示した。

実技では、まずインストラクターが自転車で乗って、道路を斜め横断する場合と、まっすぐに横断する場合とでかかった時間を計測。斜め横断のほうが道路に滞在する時間が長いことが、事故に遭う危険性が高くなることを説明した。

次に、1台のクルマが生徒たちの前を走り抜ける。インストラクターが「速度はどのくらいでしょう？」と生徒たちに問いかける。「30km/h」と答える生徒が多か



インストラクターが自転車で乗り、道路をまっすぐに横断する場合（上）と、斜めに横断する場合（下）とでかかった時間を比較

かったが、正解は40km/h。速度の感じ方には個人差があり、クルマは自分が思っているよりスピードを出している場合があることを理解してもらおう。



交通安全センターのバリアブルコースにある降雨装置を使って、雨天時のドライバーの視界を体験。歩行者や自転車は見落とされやすいことを知ってもらう



生徒がトレーニング車両に乗り込み、後部座席の生徒のかけ声で助手席の生徒が補助ブレーキを踏む

最後に、インストラクターの運転するトレーニング車両に生徒が同乗して、目標制動の体験が行われた。インストラクターが60km/hで濡れた路面を走行し、目標となるパイロンでピットリ止まれるように後部座席の生徒が声で合図をしたら、助手席に乗っている生徒がトレーニング車両の補助ブレーキを踏んでクルマを停止させるといふものだ。

生徒たちと交通安全教室に参加した赤坂教諭は「交通安全教育センターの施設を使って様々な体験ができたので、生徒にも好評でした。夜間の通行や斜め横断の危険性など、登下校時の事故防止に役立つ内容だったと思います」と感想を語った。

TOPICS

●第12回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会 73校140名の教習指導員が 指導力の基礎となる技術を競い合う

5月31日、6月1日の両日、鈴鹿サーキット交通安全教育センター（三重県鈴鹿市）で「第12回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」（主催…本田技研工業（株）安全運転普及本部、後援…社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会）が開催された。同大会は、全国の自動車教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎年行われている。

開会式では、大会会長を務める大山龍寛・本田技研工業（株）安全運転普及本部本部長が「自動車教習所が地域の交通安全教育センターとして安全運転教育の核となっていたためには、質の高い教育ができる指導員の活躍が今後ますます期待されます。この大会への参加が指導員相互の切磋琢磨と、皆様のモチベーション向上の一助になれば幸いです」と述べた。また、来賓を代表して、加藤四郎・社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会教習部長が挨拶を行った。



全国26都府県73教習所から140名の選手が参加



開会式で挨拶を行う加藤四郎・社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会教習部長

今大会には、全国26都府県73教習所から140名の選手が参加。普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、実技指導力に取組んだ。

普通二輪部門総合1位の館林自動車教習所（群馬県）・青木孝行さん、同2位のラヴィドレイピングスクール蒲田（東京都）・坂本章吉さん、大型二輪部門総合1位の早稲自動車学校（山口県）・久永隆一さん、同2位の新東京自動車教習所（東京都）・中元聡さん、四輪部門総合1位のアヤハ自動車教習所（滋賀県）・平井智さん、同2位のドリームモーターズスクール昭和（長野県）・丸山圭一さんには、全日本指定自動車教習所協会連合会会長賞が贈呈された。



大型二輪部門「コーススラローム」



普通二輪部門「一本橋」



「実技指導力」では、二輪・四輪の選手がともに「コーナリング」をテーマにした課題に取り組んだ



四輪部門「コーススラローム」

NEWS REVIEW 2

●平成23年度国際交通安全学会
研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式

様々な交通問題に関する 研究成果を発表



4月13日、経団連会館（東京都千代田区）で、「平成23年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式」が開催された。研究調査報告会は、平成23年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から①「子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究」②「安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究」③「震災危機管理と安全・安心な交通社会の実現に関する総合的研究～しなやかな地域社会の再生と創造を目指して～」④「知的障害者のモビリティ確保のための都市公共交通の課題」の4テーマが発表された。

①では、多田昌裕・ATR知能ロボティクス研究所研究員らが研究の最終年度として、中学生への自主活動定着化マニュアルと教材作成を実施。また教習所における自転車運転技能の測定と教育手法確立が報告された。

また、33回目となる国際交通安全学会賞の表彰も併せて行われ、業績部門では国土交通省東北地方整備局の「東日本大震災における『くしの歯作戦』を中心とした救援・復旧事業」と三陸鉄道（株）「復興の促進と教訓を結ぶ研修プロジェクト～三陸・被災地フロントライン研修～」が受賞した。また、著作部門では堀田典裕著の「自動車と建築—モータリゼーション時代の環境デザイン—」が受賞した。